

令和元年度 取掛西貝塚保存事業計画について

取掛西貝塚は、飯山満町1丁目・米ヶ崎町に所在する縄文時代早期前半(約1万年前)及び前期(約6000年前)の貝塚及び集落跡である(面積約76,000㎡)。東京湾東岸部では最古の貝塚であり、かつ日本列島において人類が定住し始めた縄文時代初期の集落跡として、全国的に見ても希少かつ重要な遺跡であると注目されている。

本市では国史跡指定を目指し、未調査の畑地(約55,000㎡)を対象として、遺跡の範囲・構造を把握するために、3ヵ年の予定で確認調査を進めており、今年度が調査の最終年度である。

平成29年度は東半部を対象として、平成30年度は西半部を対象として確認調査を実施した。その結果、台地全体に約1万年前の集落跡が広がっており、当該期の関東地方最大級の規模であることが判明した。また、約1万年前の縄文海進初期と約6000年前の海進最盛期の両方の集落跡があり、環境変化に対する縄文人の適応を直接比較できる、希少な遺跡であることがわかってきた。

今年度は補足調査として、未調査部分の確認調査と保存状態の良い縄文時代早期・前期の竪穴住居跡各1軒を対象として6~9月に調査を実施する予定である。

なお、4月から考古専門職の新規採用職員3名が増員され、文化課埋蔵文化財保護係の史跡整備推進班と保護班、埋蔵文化財調査事務所に各1名ずつ配置された。

<市の主要施策：取掛西貝塚の保存・整備 3,741万円> (国庫・県費補助事業)

1. 平成30年度の調査成果について

平成30年度第3回文化財審議会にて報告。

2. 令和元年度の計画と実施内容

① 補足の確認調査(6月~9月)

- ・未調査部分について補足の確認調査を実施
- ・試料分析の実施：貝層等の試料採取・分析委託(年代測定、動植物遺存体分析等)。

※今年度も大学生発掘参加予定

② 竪穴住居跡の詳細調査

- ・確認調査で検出された竪穴住居跡のうち、遺存状態の良好な早期・前期の各1軒ずつを対象とし、住居を復元できるよう住居跡の構造を把握するための詳細調査を実施する。

③ 自然環境調査(ボーリング)・分析→古環境を復元

- ・6月上旬の作業部会で採取したコアを検討し、自然科学分析を進めていく。
- ・追加調査地点の選定

④ 調査検討委員会の開催(遺跡の調査・保存・整備計画について検討)

- ・平成30年度~令和2年度(3ヵ年)予定
- ・委員5名：堀越正行氏・阿部芳郎氏・谷口康浩氏・樋泉岳二氏・佐々木由香氏
- ・オブザーバー：文化庁担当官・県文化財課担当者

⑤普及事業

1) 刊行物

- ・取掛西貝塚パンフレット(中級編)発行・カラー8頁予定(国庫補助事業)
- ・考古学協会で概報を配布(5/19 駒澤大学)
- ・『船橋の遺跡マップ』1万部印刷・小学6年生配布(H.27～継続・国庫補助事業)

2) 講座・講演会・遺跡見学会等

- ・教員・市民対象の講座(6/5・8/2 小中校初任者研修会、7/3 中教協見学会・講義、8/8 小中教頭会見学会、12/14 千葉県北西部地区文化財発表会・11～12月展示@飛ノ台史跡公園博物館)
- ・講演会(調査報告会)@勤労市民センター 3月14日(土)午後予定
- ・遺跡見学会
- ・発掘体験:芝山西小予定

3) 遺跡説明板の設置

- ・6基設置予定(H.27～継続・国庫補助事業、34基設置済)

4) 広報活動

- ・『広報ふなばし』・各新聞等、FBによる情報発信他)

⑥専門職配置と体制:考古職7名→14名(平成27・28・30年度)

- ・令和元年度:3名採用

◎事業推進のイメージ

